

次期県立高校改革推進プラン策定のためのアンケート調査

I 調査の概要

1 目的

次期県立高校改革推進プラン及びプログラム策定に生かすため、各地区における今後の高校の在り方の検討、社会の変化や生徒の多様なニーズに対応した豊かな学びの実現及び、魅力ある高等学校づくりの推進に活用する。

2 対象 1,301名（ ）は内訳

各教育事務所長（5）、市町村教育委員会担当課長（54）、小・中・高等学校長（1,242）

3 調査の内容（主な質問項目）

1 県立学校改革推進プラン（現行プラン）について

- (1) 適正規模・適正配置について
- (2) 普通系専門学科・コースについて
- (3) 社会のニーズに対応した教育について
- (4) 職業系専門学科について
- (5) 地域の高校で設置してほしいタイプの学校等、異校種・地域・関係機関等の連携について
- (6) 学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について
- (7) 高校改革に係る課題について

2 次期県立高校改革推進プラン策定に向けて

3 進路指導等で収集する、公私立中学校・高等学校に関する情報源について

4 調査時期・方法

令和3年8月5日（木）から9月16日（木）、Microsoft®Forms による調査・回答・回収

5 回答の状況

対象1,301名のうち1,140名から回答を得られた。回収率は87.6%である。

状況は以下の表のとおりである。

	千葉市	葛 南	東葛飾	北 総	東上総	南房総	合 計
各 教 育 事 務 所	※	1	1	1	1	1	5
市町村教育委員会	1	5	6	16	17	9	54
小 計	1	6	7	17	18	10	59
小 学 校	82	133	118	128	78	91	630
中 学 校	44	62	64	70	30	53	323
義 務 教 育 学 校	0	1	0	1	0	0	2
小 計	126	196	182	199	108	144	955
県立高等学校	18	20	23	23	11	16	111
市立高等学校	2	2	2	1	0	0	7
小 計	20	27	27	24	12	16	126
合 計	147	229	216	240	138	170	1,140

主なテーマ：★ 肯定的意見：○ 否定的意見：● 提案：◇ グラフ数値の単位：％
 【回答者所属】教育事務所・市町村教委：(教) 高校：(高) 中学校：(中) 小学校：(小)
 グラフの凡例 ■納得 ■疑問 ■未回答

II 集計結果

1 主な結果

(1) 県立高校の適正規模・適正配置

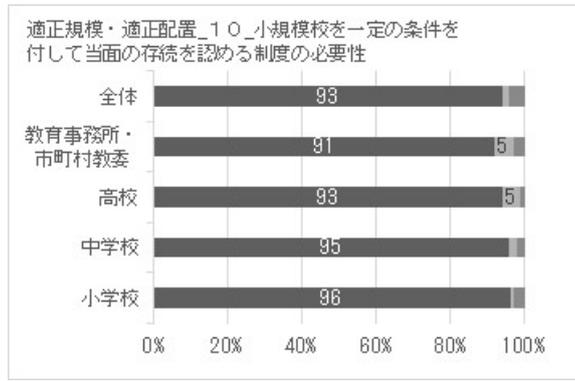
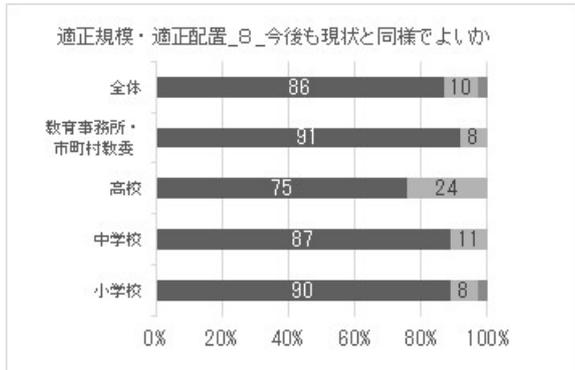
①全日制高校の配置

★1校当たりの適正規模、適正配置

- 適正規模とならないと、カリキュラムの弾力性が失われてしまう (高)
- 公・私ともに、中学校卒業生数以上に高校が設置されており、互いにスリム化が必要 (高)
- 10年後6000人減少に向けて都市部の普通科2～3校を統合し、新しい校舎を建てる。進学校と中堅校でそれぞれ1校程度 (高)

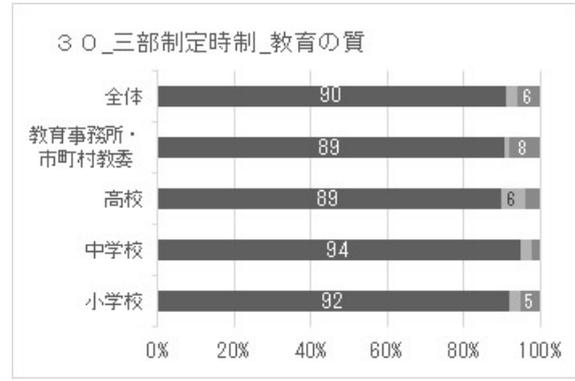
★郡部高校存続の条件

- 学校は地域コミュニティの核 (教)
- 存続条件の一つにコミュニティ・スクール実施校を入れてはどうか (高)
- 生徒が切磋琢磨して成長する機会が少ない小規模校は当面であってもない方がよい (高)



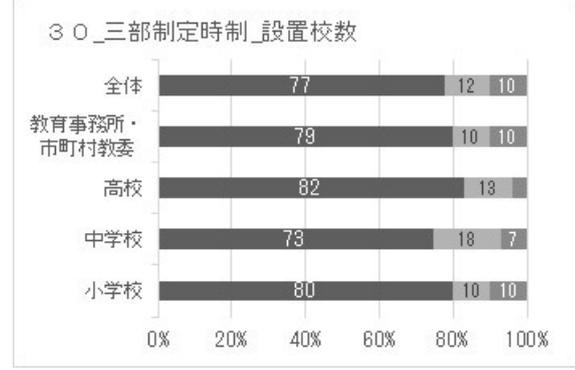
②定時制高校の配置

- 夜間定時制の午後部化を検討すべきではないか (高)
- 三部制のニーズは高いが、午前・午後の二部制高校を設置する方が現在の定時制志願者のニーズに合致する (高)
- 不登校傾向の生徒やグレーゾーンの生徒の学び直しの場合として、三部定時制や昼間定時制の高校の枠を増やす (中)



③通信制高校の配置

- ◇ICTを利用した通信教育と、全県に協力校を設置しスクーリングの推進 (高)
- ◇通信制協力校の充実と夜間定時制の配置の見直し(整理)をセットで推進 (高)



(2) 魅力ある県立高校づくりの推進

①全般に関する意見

- 県内どこに住んでいても容易に通学できる範囲で多様な学校を配置 (教)

- ◇スクールポリシーに基づく教育方針の明確化、戦略的な広報の推進（高）
- ◇私立高校を含めた各校との差別化（中）
- ◇学校間の「横の連携」が不十分（中）

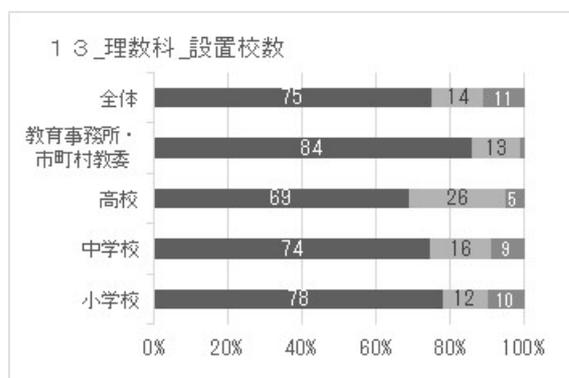
②普通科及び普通系専門学科・コース

★普通科教育

- ◇中学校の段階で、将来を見通した進路選択や進路指導ができるかどうか疑問。「普通科」を基本とする考え方は大事にしておきたい（高）
- ◇学級数減が進む中、学びを保障するためフィールド制への展開による対応が必要（高）
- ◇普通科も進学だけでなく就職にも十分に対応できる教育活動を行っていく（中）

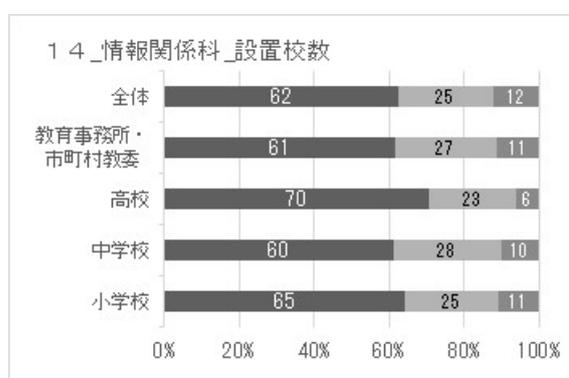
★理数科

- 現状が学科の目的を果たせているのか疑問があるため（教）
- 匠は総合学科が望ましい（高）
- 定員未充足が続いている学校については、くくり募集をしてはどうか（中）



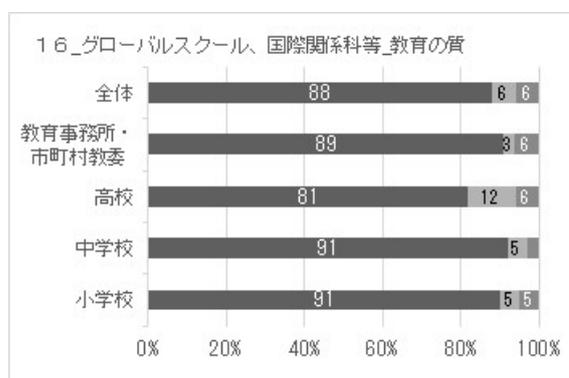
★情報関係科

- Society 5.0に対応するため当該学区以外においても充実を図るべき（教）
- 全ての学校で力を入れていくべき内容なので、先進的・実験的な取組を研究する意味で、2校の設置で十分（高）
- デジタル庁開設という時期に2校設置が妥当かを検討する余地がある（小）



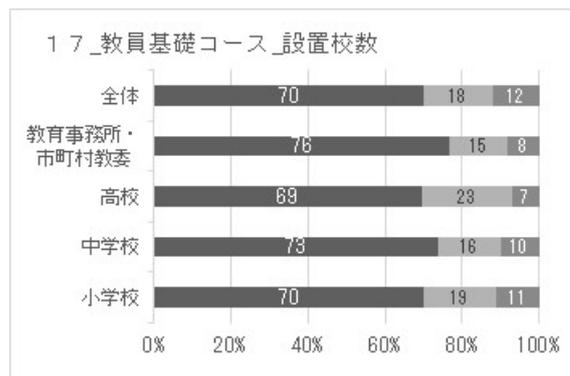
★国際関係学科・コース

- 国際系の学科・コースは都市部においては需要がまだあるのではないかと
思う。また、日本のグローバル化のためにも必要だと思う。（高）
- 英語コースについて、言語を学ぶコースは役割が終了している（高）
- 外国籍や帰国子女の枠が狭く、国際科でも積極的に受け入れていないと感じられる（中）
- 今後市原市から稲毛高校国際教養科が受験不可となり、例年松戸国際や成田国際を受験する生徒がいることを考えると千葉市内に国際科の設置が欲しい（中）
- グローバルスクール、国際関係・英語コースなど、特色や違いが分かりにくい。結局、通学の可能な学校を選択することにならないか（小）



★教員基礎コース

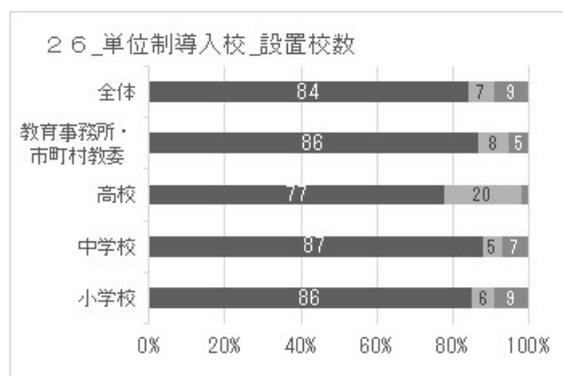
- 都市部からは千葉女子高校への進学が考えられ通学も可能であるが、男子の進学先としては我孫子高校になるが通学には遠距離であるため (教)
- 外房地域に1校設置してほしい (教)
- 希望する生徒が増加傾向にあり定着してきたことを実感している (高)
- 安房高ではコース選択生徒が実際に教員を志望し、教職に就いているから (小)



③社会のニーズに対応した教育

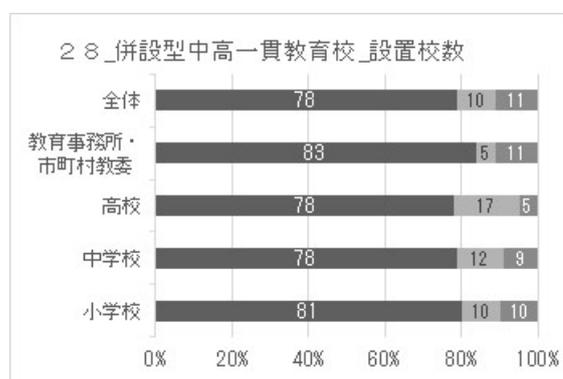
★単位制導入校

- 進学指導重点校などに限定、進学指導重点校の未指定校への導入 (高)
- 第3学区にない。成果が出ていない学校もあると感じる (高)
- 生徒の主体的な学び、今後の大学教育に繋がる方法だから (中)
- 選択の意義を理解して取り組めているのか、良い選択ができるのか (中)



★中高一貫教育校

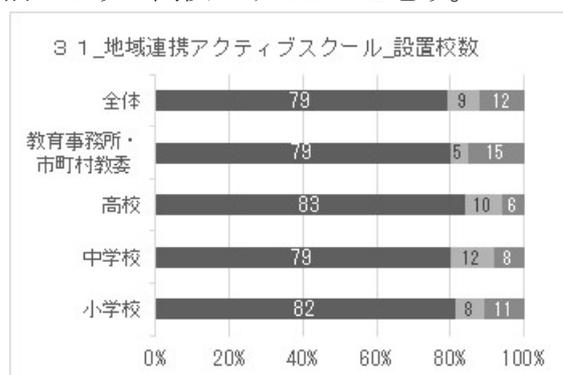
- 県立も中等教育学校があつていいと思う。葛南地区の優秀な小学生を東京に取られないようにした方がいい (高)
- 6年間一貫教育を達成できるように高校での合流はしないほうが良い (高)
- 中高の連携で教育効果が高まると思う。多くの学校で連携した教育を行ってほしい (中)



- 中学受験において教育格差が広がり、以前のように高校のみでよいと思う。

★地域連携アクティブスクール

- 学び直しなどの教育課程が設定されており魅力的である (教)
- 目的がわかりやすく、受け入れる側の学校も入学する側の生徒、保護者、中学校も、満足できる (中)
- 以前より、生徒が落ち着いた様子が見られ、一定の効果があるため (高)
- 都市部の各学区に2校ずつあつてもよいと思う (高)



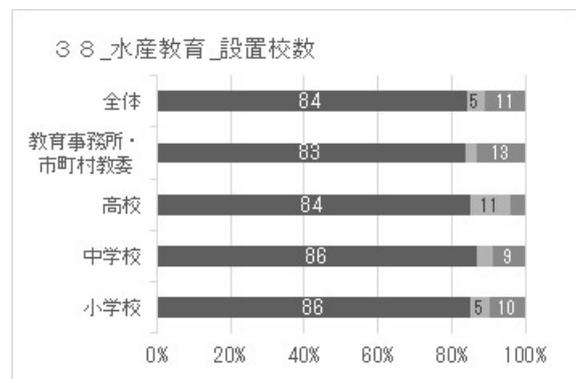
④職業系専門学科・コース

★全般に関する意見

- ◇「中学校の先生方」に学校の教育内容や生徒を直接見てもらう（高）
- ◇専門学科から大学への進学も可能であることも含めて、ある程度の多様な進路が保障されていることを中学生及び保護者にしっかり理解してもらう（高）
- ◇6次産業化への対応は、既に各専門部会でカリキュラムマネジメント化している（高）
- ◇高校進学時に専門を決めるのは時期的に早く厳しい（中）
- ◇専門学科の魅力を小・中学校のキャリア教育の中で学ぶ機会があるとよい（小）
- ◇県の産業や地域の振興計画と連携して検討してほしい（小）
- 児童・生徒数が減る中で、専門学科の教員数も減少している。今後は、教員人事的な面とあわせて学科・学校の設置校（場所）は考えていくべきかと考える（高）
- 農業、工業では先端科学の要素を入れたほうがよいと思われる（小）

★水産教育

- 人材や設備の面で1校（生徒が集まりやすい地域に）に集約すべき（高）
- 寮を設置して1校に集約する、その1校を千葉市内に設置し千葉港に実習船を置く（高）
- 県外募集の導入（高）

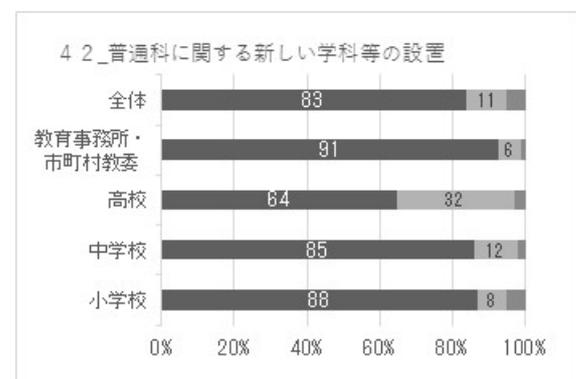


★福祉教育

- 有資格の専門教員の確保に課題（高）
- 設置地域に偏りがある（中）

⑤学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について（令和3年3月31日付け国からの通知にある、普通科に関する「学際領域に関する学科」、「地域社会に関する学科」等の設置検討について）

- ◇「学際領域に関する学科」等の設置までには少し時間がかかるので、当面はカリキュラムマネジメントによる対応とすべきである。新学科を設置するのであれば配当される教科科目の専門教員の配置を併せて行ってほしい。



(3) 進路指導等で収集する、公・私立中学校・高等学校に関する情報源について

<調査の目的>

- ・進路指導等で学校の情報を収集する際には様々な手段が考えられるが、今後戦略的な広報を検討していくうえで、どの情報源にどれだけウェイトが置かれているかを分析することが有効であり、この質問を設定した。

<分析結果>

- ・学校のホームページや、学校による学校説明会を学校の情報源として重視する回答が多い。

(全回答のうち、80%が学校のホームページか学校による学校説明会を優先度1～3に置いている。)

- ・全体としては僅かであるが、周囲の評判やSNSといった、学校や県教委が発信主体ではない情報源を重視する回答もみられた。

- ・公立学校の情報源としては、県教委のホームページが市販の文献に対し優位に立っている。

- ・私立学校の情報源としては、市販の文献が県教委のホームページに対し優位に立っている。

